

Advisers' viewpoint

【中学校の実践例】

～授業改善を促進する校内研究組織～

第4号
令和4年12月

今号では、教員が「日常的に授業について語る文化」を校内に根付かせ、授業改善を促進するための組織づくりを紹介します。

Advisers' viewpoint



「日常的に授業について語る文化」を醸成させる要素の一つとして、**校内研究組織を有効に機能させる**ことがあります。そのためには、ミドルリーダーの情熱を高め、自覚を促すべく、管理職が時機を見て適切にファシリテート（促進）することが重要です。

今号で紹介する学校では、「**理論研究**」と「**実践研究**」という二つの校内研究組織をつくり、**ミドルリーダーに適切に責任を持たせ、教員一人ひとりが「自分事」として授業改善に取り組む**ようにする仕掛けを行っています。

学校経営アクションプランの概要

本年度の【重点】と【重点的取組】の実際を紹介をします。

- 「知」に関する項目：『つながり』をキーワードにした授業づくりと家庭学習習慣づくりを通して、生徒の主体的学習態度を育てる。」
- 「徳」に関する項目：「地域の魅力発見や課題の探究・解決学習活動を通して、地域や社会に主体的にかかわる意欲と態度を育てる。」

より効果的に取組を進めるため、校内研究組織を2本立てで設定している。→「**テーマ別研究部会**」と「**授業研究グループ**」

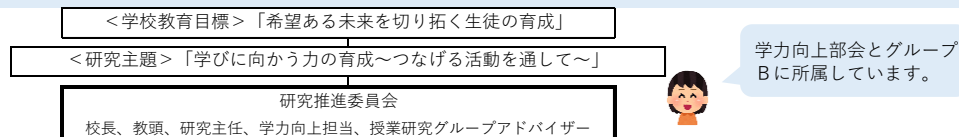


重点的取組の実際

A Pに込められた校長の思い

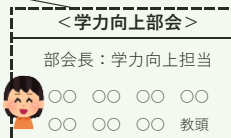
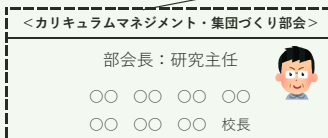
研究主任とアドバイザーをしています。

学力向上部会とグループBに所属しています。



テーマ別研究部会

～定期的な協議と全体への提案～



授業研究グループ

～1・2学期：グループ別授業研修～

グループA					グループB				
メンティ	メンター	アドバイザー	メンバー	スーパーバイザー	メンティ	メンター	アドバイザー	メンバー	スーパーバイザー
〇〇	〇〇	〇〇	〇〇 〇〇	スーパーバイザー	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇 〇〇	校長
			〇〇 〇〇					〇〇 〇〇	
			〇〇					〇〇	

- <総合的な学習の時間担当> 〇〇 〇〇 〇〇
- <生徒指導担当> 〇〇 〇〇 〇〇
- <生徒会担当> 〇〇 〇〇 〇〇
- 福祉・防災・地域の課題発見をテーマに、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにした課題探究・解決
- 各教科と総合的な学習の時間との連携
- 地域や家庭との連携
- SGE、SST、ピア・サポートなどの集団づくり活動の推進
- i-checkに基づいた学級集団づくり
- 生活習慣の見直し（メディアコントロールを含む）

- 自分で思考する場面・考えを交流する場面の確保と工夫
- 振り返りの視点の工夫
- 興味や疑問を授業へつなげる家庭学習の工夫
- 国・県学力状況調査の結果分析と取組の提案
- GIGA端末を活用した授業の工夫
- 各グループで公開授業を通じた校内研修を実施し、授業反省を行う。
- メンター、アドバイザーを中心に学習指導案検討を行う。
- 学力向上部会が提案する思考場面・交流場面の確保と工夫、振り返りの視点の工夫について実践し、研修を行う。
- 家庭学習課題の内容は、授業中に達成度を確認したり、定期テストで出題したりすることにより、授業と家庭学習をつなげる。
- GIGA端末を活用した授業の工夫を行う。

・授業改善の必要性は理解できていても、効果的な校内研究が十分に行えていない実態があった。
全教員が部会とグループにそれぞれ所属することで、理論と実践の融合を図り、取組を通して、ミドルリーダーの育成にも取り組みたかった。

・「日常的に授業について語る文化」を根付かせるために、年度当初に年間計画を示し、確実に実践していきたい。

〔成果〕
組織を2本立てにすることにより、多面的に研究に携わるようになり、授業改善を自分事としてとらえる教員が増えてきた。**授業について日常的に会話する姿も徐々に見えてきた。**

〔課題〕
部活動指導や生徒指導等で時間を取られることも多く、部会やグループの会の時間をどう確保するかが課題である。

毎学期の生徒・教員アンケートによる実態把握 PDCAの構築

※ 本資料は新見市立新見南中学校の取組を参考に作成しています。